

令和8年度公共事業再評価調査

整理番号		事業名		路線名・河川名等			事業箇所		
7		道路総合交付金		一般国道471号			ナントシ トガムラ トチハラ ナントシ トガムラ 南砺市利賀村栃原～南砺市利賀村		
着手	完了	経過年数	残事業 年数	再評価 区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R8 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
H9	R13以降 (R13)	30年	5年以上	5回目	14,740 (11,700)	10,153	200	4,387	70.2%
全体計画									
道路改良(バイパス) 延長9.1km (内 訳)一般部1.9km、橋梁7箇所1.1km、トンネル2箇所6.1km									

事業費の単位は百万円、下段()書きは前回再評価時の数値である

事業概要の説明

一般国道471号は、石川県を起点とし富山県を通過して岐阜県にいたる幹線道路である。このうち当該事業区間(現道延長18.8km)は南砺市利賀村にとって生活圏となっている砺波方面へ最短経路で連絡し、地域の産業である観光及び地域住民の生活を支える道路として重要な役割を担っている。しかしながら、現道は幅員が狭く、急カーブが連続し、縦断勾配もきつく、特に冬期には雪崩により通行止めが度々発生している。これを解消するため、国土交通省が進めている利賀ダム建設事業の工事用道路を国道471号バイパスとして活用することとしており、工事用道路としての幅員(7m)を一般道路として必要となる幅員(9.5m)に拡幅し、その拡幅分を県で費用負担している。バイパスの整備により、悪天候時の通行規制が解消され、緊急時における交通ルートの確保が可能となるとともに、利賀村から砺波方面への所要時間短縮が図られる。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
自動車類交通量 (道路交通センサス)	台/日	1,700 (H6)	1,020 (R3)	減少 (△680)
南砺市(利賀地域)の人口	人	1,118 (H9)	402 (R8.3)	減少 (△716)
道路防災点検要対策危険箇所	箇所	21 (H8)	28 (R7)	増加 (+7)
南砺市の観光客入込数	千人	3,426 (H26)	2,957 (R6)	減少 (△469)
年間通行止め延べ日数 (直近五年間のうち最大)	日	58 (H23)	74 (R7)	増加
自己評価内容				評価結果
・国道471号における年間通行止め日数については、増加している。また、要対策危険箇所については、増加傾向にある。よって、当該事業区間のバイパス整備は、悪天候時の通行規制解消、緊急時における交通ルートの確保、安全で円滑な交通等に大きく寄与する。 ・平成16年度に利賀村を含む4町4村が合併した南砺市は、旧町村役場に行政事務を分担する分庁舎方式を採用しており、地域の一体化を促進するうえで旧町村役場間を連結する道路の重要性がますます高まっている。このため、県では本バイパスを合併支援道路に位置づけ、積極的に整備している。				事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益比	—	2.03 (H8)	0.65 (R8)	前回調査時 0.74 (R3)
数値化が困難な事業効果				
・危険箇所の解消(安全で円滑な交通の確保)、悪天候時の通行規制解消、緊急時における交通ルートの確保等への寄与。 ・バイパス整備に伴う利賀地区への観光客入込数の増加(利賀地区の活性化)。 ・バイパス整備により、現道幅員の狭さ、連続する急カーブ、及び急な縦断勾配が解消され、救急医療施設である「南砺市民病院」への緊急車両等のアクセス時間が短縮できる。				

自己評価内容							評価結果
・バイパス整備に伴う効果として、既存3便益(走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益)の他、道路交通の信頼性の向上、環境改善、交流機会の拡大、医療環境の向上、災害時の代替路確保、走行快適性の向上等、多岐多様にわたる効果が期待できる。 ・年間を通じて利賀地域への安全で安心な交通確保を図るうえで必要であり、地元等からの要望も強い。また、合併した南砺市の地域一体化を促進するためにも必要である。							事業継続が妥当
3. 事業の進捗状況、見込							
全体計画			令和8年度まで整備済		未整備内容		令和8年度までの進捗率(%)
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業費ベース
一般部(km)	1.9		1.9		0.0		100.0%
橋梁部(km)	1.1	12,706	1.1	8,552	0.0	4,154	100.0%
トンネル部(km)	6.1		3.7		2.4		60.7%
用地補償費等(式)	1式	2,034	—	1,801	—	233	—
測量試験費(式)	1式	745	—	745	—	0	—
用地補償費(式)	1式	82	—	82	—	0	—
間接費(式)	1式	1,207	—	974	—	233	—
合計	9.1	14,740	6.7	10,353	2.4	4,387	73.6%
残事業内容および今後の整備見込 ・平成20年度までに全ての用地取得を完了(A=137,000m ²)し、起点および終点の両側からバイパス整備を進めてきている。 ・これまで、3号トンネル(L=1.1km)、松谷橋(L=52m)及び利賀湖面橋(348m)、利賀大橋(367m)、長崎橋(L=72m)、豆谷橋梁(L=259m)、シクルビ谷橋等が完成しており、令和元年度より延長約5.0kmの1・2号トンネルに着手し、令和8年2月に貫通した。令和8年度は、引き続き令和13年度以降の供用開始に向けてトンネル整備や安全施設の整備を継続する。							
自己評価内容							評価結果
・利賀バイパスにかかる用地取得率は100%であり、事業推進にかかる環境については、整っている。 ・県アロケ負担額(利賀バイパス事業の19.8%)に対する県の支出(進捗率)は、今年度まで事業費ベースで70%となっている。 ・これまでダム建設に関係する地元住民の生活再建にかかる道路整備を継続してきている。							事業継続が妥当
4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)							
自己評価内容							評価結果
・現道の国道471号は急峻な地形を通過していることから拡幅整備する場合は巨額の費用を要するが、本事業は国土交通省の利賀ダム建設事業と合併施行とし、ダム事業の工事用道路幅員に一般道路として必要な拡幅分だけをバイパス道路事業として費用負担することにより大幅なコストの縮減が図られている。 ・これまで橋脚施工時に掘削面積を抑える竹割り型構造物掘削工法で1億円、さらに、事業延長の約66%を占めるトンネル部のコスト縮減が重要になるが、国土交通省では平成19年度にトンネルコスト縮減委員会を開催され、その結果として、覆工コンクリートの高強度化により、部材厚を薄くし、コンクリートの使用量を低減したこと等から、利賀トンネル(3工区)工事で2億円のコストの縮減を図っている。また、トンネル掘削による発生土を利賀ダム建設事業で必要となる、ヤード整備や基盤材等に有効活用することで、0.24億円のコストの縮減を図っている。							事業継続が妥当

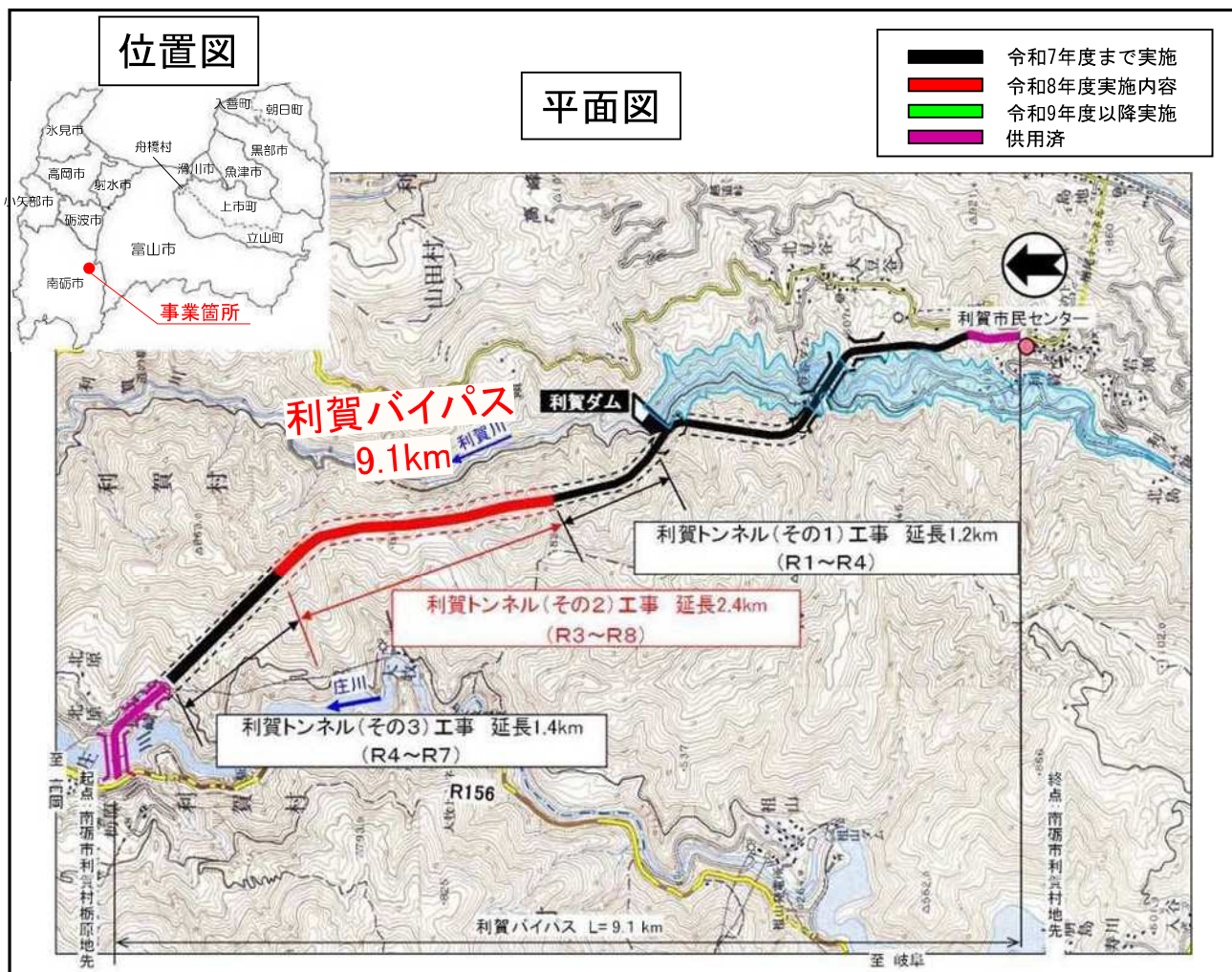
その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など							
・令和2年8月に利賀ダム基本計画の変更計画が策定され、当該事業に関係する、工事用道路も含め利賀ダム建設に係る建設費用や事業期間が見直された。 ・南砺市及び利賀ダム建設促進期成同盟会等から整備促進の要望を受けている。 ・富山県は、国土交通省への令和8年度要望の中で「計画的かつ1日も早い完成」と「総事業費の抑制」および「地方の財政負担の軽減」を要望。							
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響							
・砺波市庄川町小牧～利賀市民センターに至る現在の国道471号については、幅員が狭く、見通しが悪く、勾配が急な区間が多いため、安全で円滑な交通が確保されない。また、大雨・落石・雪崩等により度々発生している通行止めが解消されない。							

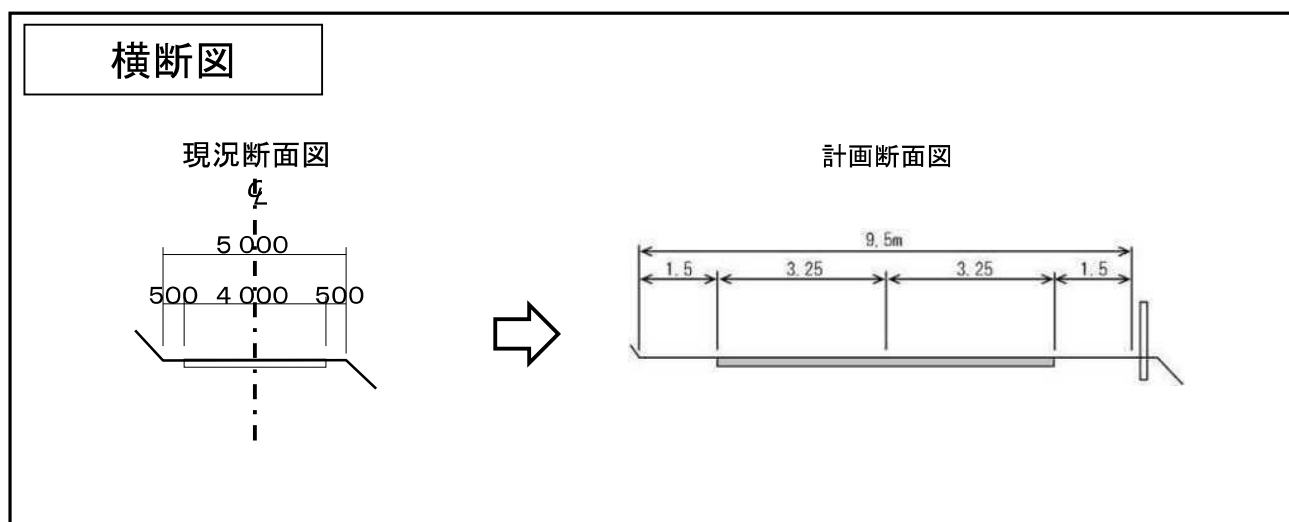
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	・工事に必要な用地については既に取得済みであり、工事を推進する環境が整っている。 ・本事業は、年間を通じて利賀地域への安全で安心な交通確保を図るうえで必要であり、合併した南砺市の地域一体化を促進するためにも必要である。 ・本県の観光においてもこのバイパス整備がもたらす効果は大変大きい。また、地元等からの要望も強く、事業継続は必要である。

7 道路総合交付金事業 一般国道471号 利賀バイパス(南砺市利賀村栃原～利賀)



主な工種 (全体事業量)	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 20%; background-color: black; margin-right: 5px;"></div> R7まで <div style="width: 20%; background-color: red; margin-right: 5px;"></div> R8実施 <div style="width: 20%; background-color: green; margin-right: 5px;"></div> R9以降 <div style="width: 20%; background-color: purple; margin-left: 5px;"></div> 供用済 </div>	R8までの進捗率	
		事業量ベース	事業費ベース
用地補償 (137,000㎡)		100%	70%
一般部 (1.9km)		100%	
橋梁部 (1.1km・7橋)	トンネル内工事(舗装工事等)	100%	
トンネル部 (6.1km・2ヶ所)		61%	



整備前の状況

①



②



国道471号は、幅員が狭く、見通しが悪く、勾配が急な区間が多い

現況写真(整備中の状況)

③シクルビ谷橋(R2完)



④1、2号トンネル(利賀トンネル)



⑤利賀ダム(予定箇所付近)



令和8年度富山県公共事業再評価調書

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
8	河川改修費			神通川水系坪野川 <small>ジツツウガワ ツボノガワ</small>			富山市婦中町速星 <small>トヤマシ フチュウマチ ハヤホシ</small>		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R8 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
R4	R16 (R10)	5年	8年	再	2,090 (1,100)	632	63	1,395	33.3%
全体計画									
延長280m 護岸工560m(両岸) 橋梁架替工1式									

事業費の単位は百万円、下段()書きは前回再評価時の数値である

事業概要の説明

坪野川は、富山市婦中町の市街地を流れる一級河川である。
川幅が狭く、流下能力が不足しているため、度々浸水被害が発生している。
このため、沿川地域を洪水被害から守るため、護岸整備や橋梁の架け替えにより、河積を拡大し、浸水被害の解消を図るものである。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
時間雨量50mmを越える降雨実績(県内、10年間)	回	35 (H16～H25)	39 (H28～R7)	増加
浸水被害履歴 (浸水戸数)	—	・床上浸水1戸、床下浸水61戸 (H16.7.25) ・床下浸水25戸 (H20.7.8)	・床上浸水15戸、床下浸水34戸 (R5.7.12)	新たな浸水被害あり
沿川地区の人口 (富山市婦中町速星地区)	人	11,968 (R4.3月)	11,684 (R8.3月)	2.4%減少 (△284)
沿川地区の世帯数 (富山市婦中町速星地区)	世帯	4, 795 (R4.3月)	4, 992 (R8.3月)	4.1%増加 (+197)
自己評価内容				評価結果
・県内における時間50mmを超えるゲリラ豪雨の発生回数は坪野川河川改修着手時に比べ約1.1倍と増加している。 ・事業着手後の令和5年7月12日の豪雨で床上浸水15戸、床下浸水34戸の被害が発生している。 ・沿川地区の人口は減少しているものの、宅地開発が進んでおり、世帯数が増加している。富山市婦中町の中心市街地を保全対象とした防災減災対策事業である。				事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益(B/C)	—	3.8 (R4算出)	2.8 (R8算出)	
数値化が困難な事業効果				
・人的被害の軽減効果。 ・交通途絶やライフライン切断による波及被害の軽減効果。 ・事業により地域の安全性が高まり土地生産性の向上や宅地化など土地利用が高度化する効果。 ・地域の安全性を高めることによって、地域の資産価値を高める効果。				

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・主な便益は、被害軽減便益(世帯数198世帯、延床面積40,988ha)となっている。 ・費用便益比は1.0を上回っており、事業投資効果が期待できる。 	事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込

全体計画			令和8年度まで整備済		未整備内容		令和8年度までの進捗率(%)	
主な工種(単位)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	事業量ベース	事業費ベース
護岸工 (m)	280	1,677	84	592	196	1,085	30.0%	35.3%
附帯工事(式)	1	220	－	10	－	210	－	4.5%
用地・補償(式)	1	127	－	27	－	100	92.9%	21.3%
調査・設計(式)	1	66	－	66	－	0	－	100.0%
合計	－	2,090	84	695	－	1,395	－	33.3%

<p>残事業内容および今後の整備見込</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残事業の工種は、護岸工 180m、附帯工事(橋梁架替) 1橋 等。 ・高圧線の影響を受ける区間は矢板を継ぎながら打ち込む必要があり、施工に時間がかかったが今年度(令和8年度)完了予定。 用地補償の進捗率は事業量ベースで90%以上と順調に進んでいることから、今後の工事の進捗は早まるものと考えている。 ・今後は、上流に向かって引き続き施工する予定としている。

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の要望が強く、用地補償も順調に進んでいる。 	事業継続が妥当

4. 今後のコスト削減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・工法の検討比較を行い、矢板護岸工とすることで、影響範囲が狭くなり、用地補償にかかる費用を小さくしている。(約227百万円のコスト削減) 	事業継続が妥当

その他の視点

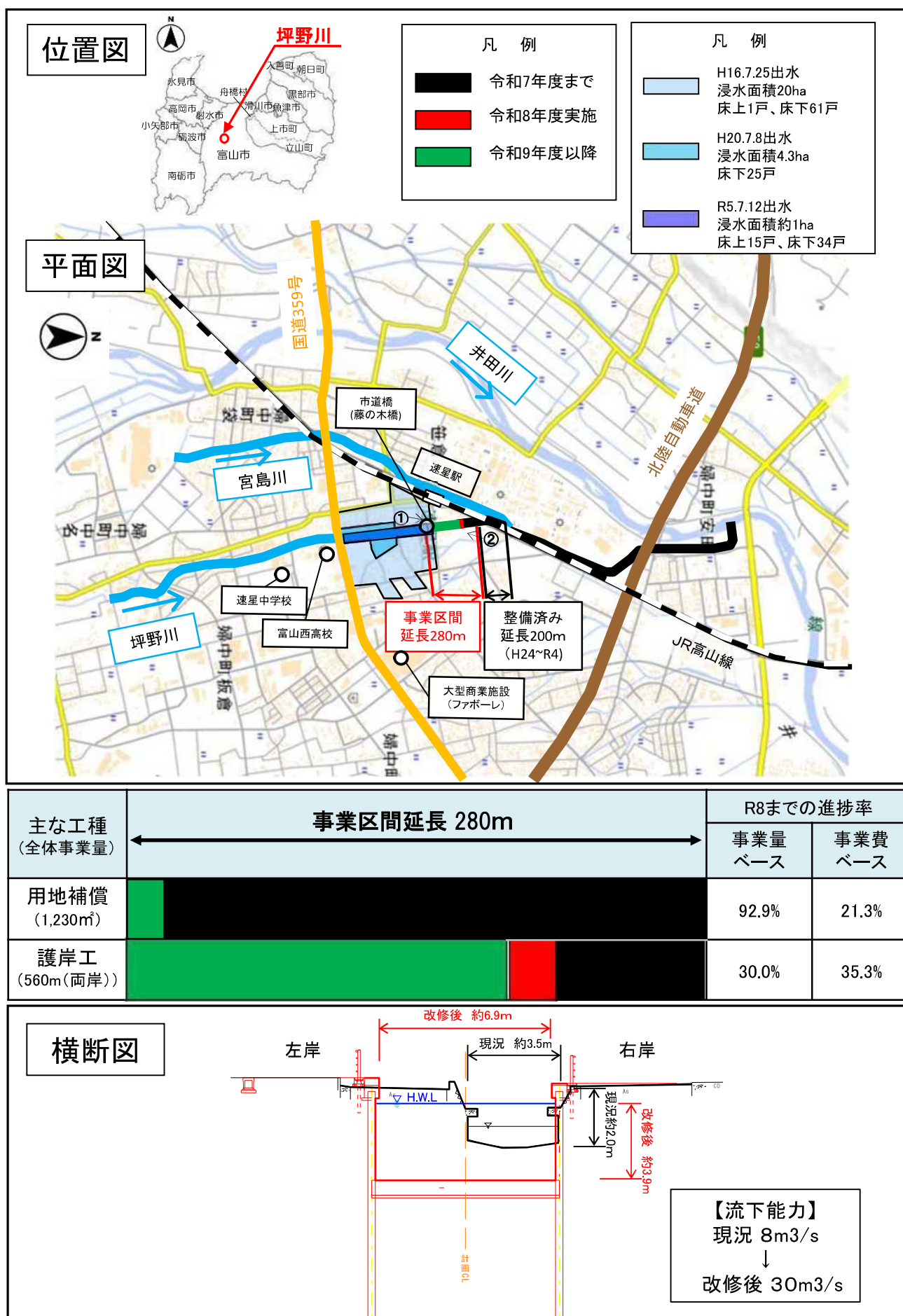
<p>5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿川地元からの要望が強く、富山市からも早期完成の要望を受けている。

<p>6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的にゲリラ豪雨の発生頻度が高くなってきている中、坪野川流域においては、近年においてもたびたび浸水被害が発生している。平成16年7月25日には、床上浸水1戸、床下浸水61戸、平成20年7月8日には、床下浸水25戸、令和5年7月12日には、床上浸水15戸、床下浸水34戸の被害が発生し、周辺住民の生活に大きな支障をもたらした。 ・治水安全度の向上を図り、沿川住民の不安を解消するため、できるだけ早期の完成を図る必要がある。

自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年にも住宅の浸水被害が発生しており、できるだけ早期の完成を図る必要がある。 ・用地補償の進捗率は90%以上と順調に進んでおり、今後の事業は順調に進捗すると考えられる。また、費用対効果は1.0を上回っている。 ・地元の要望も強く、早急に治水安全度の向上を図るため、事業の継続が必要。

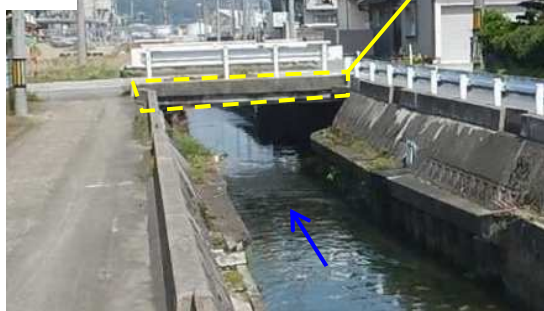
8 河川改修費 神通川水系坪野川(富山市婦中町速星)



整備前の状況

①

市道橋(藤の木橋)



過去の出水状況(H20.7)



市道橋(藤の木橋)より上流を望む

市道橋(藤の木橋)がボトルネックとなっており、市道橋の上流で浸水被害が発生している。

②



現況の写真

③

高圧送電線



施工済み区間

④

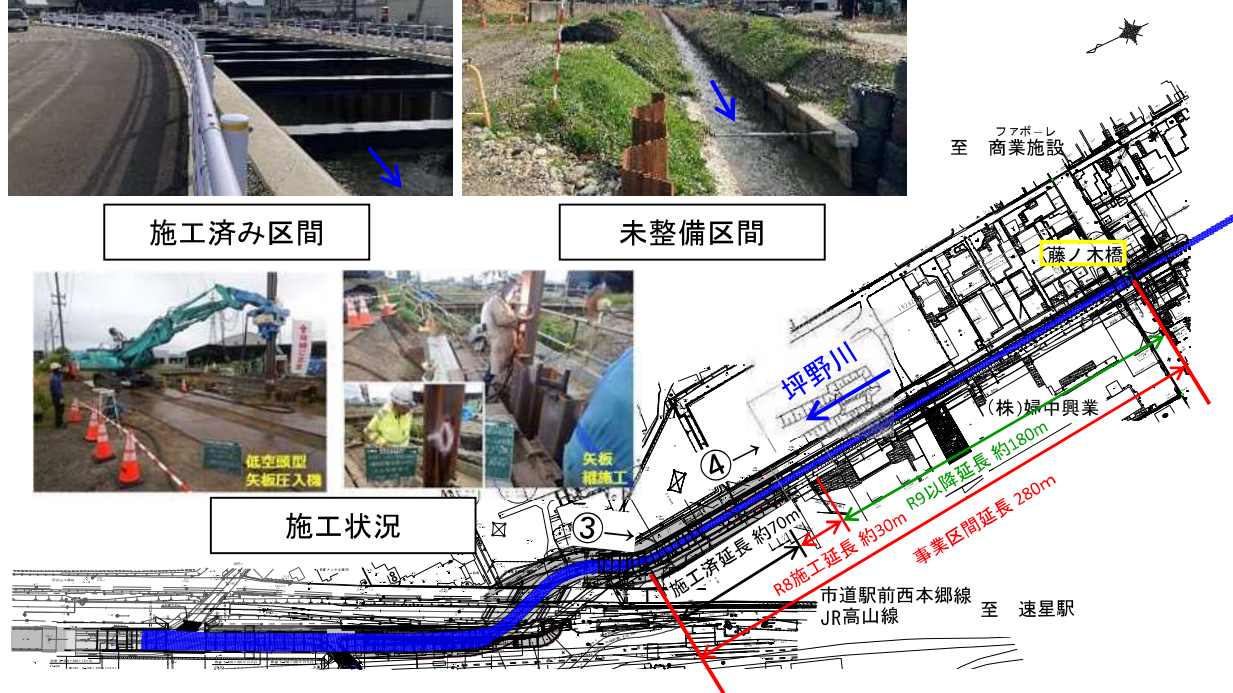
高圧送電線



未整備区間



施工状況



令和8年度富山県公共事業再評価調書

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
9	河川改修費			ショウガワ ジクシガワ 庄川水系地久子川			ノムラ アカソフ 高岡市野村～赤祖父		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R8 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
H14	R15 (R11)	25年	7年	5回目	9,200 (7,800)	6,268	125	2,807	69.5%
全体計画									
延長 1,960m 護岸工 3,920m、築堤工 3,920m									

事業費の単位は百万円、下段()書きは前回再評価時の数値である

事業概要の説明

地久子川は、高岡市東部市街地を貫流する一級河川である。
川幅が全川にわたり狭いうえ、近年は、上流域および沿川の都市化が進んだため、洪水による被害がたびたび発生しており、平成10年9月には床下浸水12戸、平成24年7月には床上浸水17戸、床下浸水30戸、平成25年8月には床下浸水1戸の浸水被害が発生し、周辺住民の生活に大きな支障をもたらした。
こうしたことから、浸水被害を防止するために河川改修を行うものである。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
時間雨量50mmを越える降雨実績(県内、10年間)	回	13 (H3～H12)	39 (H28～R7)	増加
浸水被害履歴 (浸水戸数)	—	床下浸水12戸 (H10.9.22.)	床上浸水17戸(H24.7.21) 床下浸水30戸(") 床下浸水1戸(H25.8.23)	浸水被害あり
沿川地区(野村地区)人口	人	16,461 (H12)	17,964 (R8.3)	9.1%増加 (+1,503人)
自己評価内容				評価結果
・県内における時間50mmを超えるゲリラ豪雨の発生回数は事業着手時に比べ3倍と大きく増加している。 ・地久子川流域においては、事業着手後、平成24年7月の豪雨で床上浸水17戸、床下浸水30戸、また、平成25年8月の豪雨では床下浸水1戸、令和7年8月の豪雨では圃場の浸水等の被害が発生している。 ・沿川地区の人口は増加している。				事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益(B／C)	—	17.1 (H13算出)	8.2 (R8算出)	前回評価時9.9 (R3算出)
数値化が困難な事業効果				
・人的被害の軽減効果。 ・交通途絶やライフライン切断による波及被害の軽減効果。 ・事業により地域の安全性が高まり土地生産性の向上や宅地化など土地利用が高度化する効果。 ・地域の安全性を高めることによって、地域の資産価値を高める効果。				

自己評価内容							評価結果	
・主な便益は、被害軽減便益約517.5億円(世帯数3,288世帯、田畑110ha)。 ・費用便益比は、1.0を上回っており、事業投資効果がある。							事業継続が妥当	
3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和8年度まで整備済		未整備内容		令和8年度までの進捗率(%)	
主な工種(単位)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	事業量ベース	事業費ベース
築堤工 (m³)	8,400	43	7,330	37	1,070	6	87.3%	85.4%
掘削工 (m³)	54,900	315	44,300	185	10,600	130	80.7%	58.8%
護岸工 (m)	3,920	3,143	2,720	1,514	1,200	1,629	69.4%	48.2%
附帯工事	1	1,981	—	1,125	—	856	—	56.8%
用地・補償	1	3,248	—	3,142	—	106	—	96.7%
調査・設計	1	470	—	390	—	80	—	83.0%
合計	—	9,200	—	6,393	—	2,807	—	69.5%
残事業内容および今後の整備見込								
・残事業の工種は護岸工 1,200m、築堤工 1,070m³、掘削工 10,600m³、附帯工事(橋梁架替、橋梁撤去) 5橋 等。 ・現在は県道橋(高岡青井谷線)の架け替え工事のための仮橋に着手する。 ・人家連坦部の用地・補償に時間を要したが、用地・補償はおおむね完了しており、進捗が早まるものと考えている。 ・今後、流下能力上のネックとなっている県道橋の架け替えを完成させ、その上流部を施工する予定としている。								
自己評価内容							評価結果	
・治水上ネックとなっていた鉄道橋梁部の暫定改修が平成26年までに完了し、鉄道上流部の改修を下流から順次進めている。 ・事業期間が概ね3/4経過した時点で、進捗率が69.5%と計画通り事業が進捗している。 ・人家連坦部の用地・補償に時間を要したが、用地・補償はおおむね完了しており、進捗が早まるものと考えている。							事業継続が妥当	
4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)								
自己評価内容							評価結果	
・本事業で発生した残土は、築堤の材料に利用するほか、付近の他の工事へ流用を行い、コスト縮減に努めている。							事業継続が妥当	

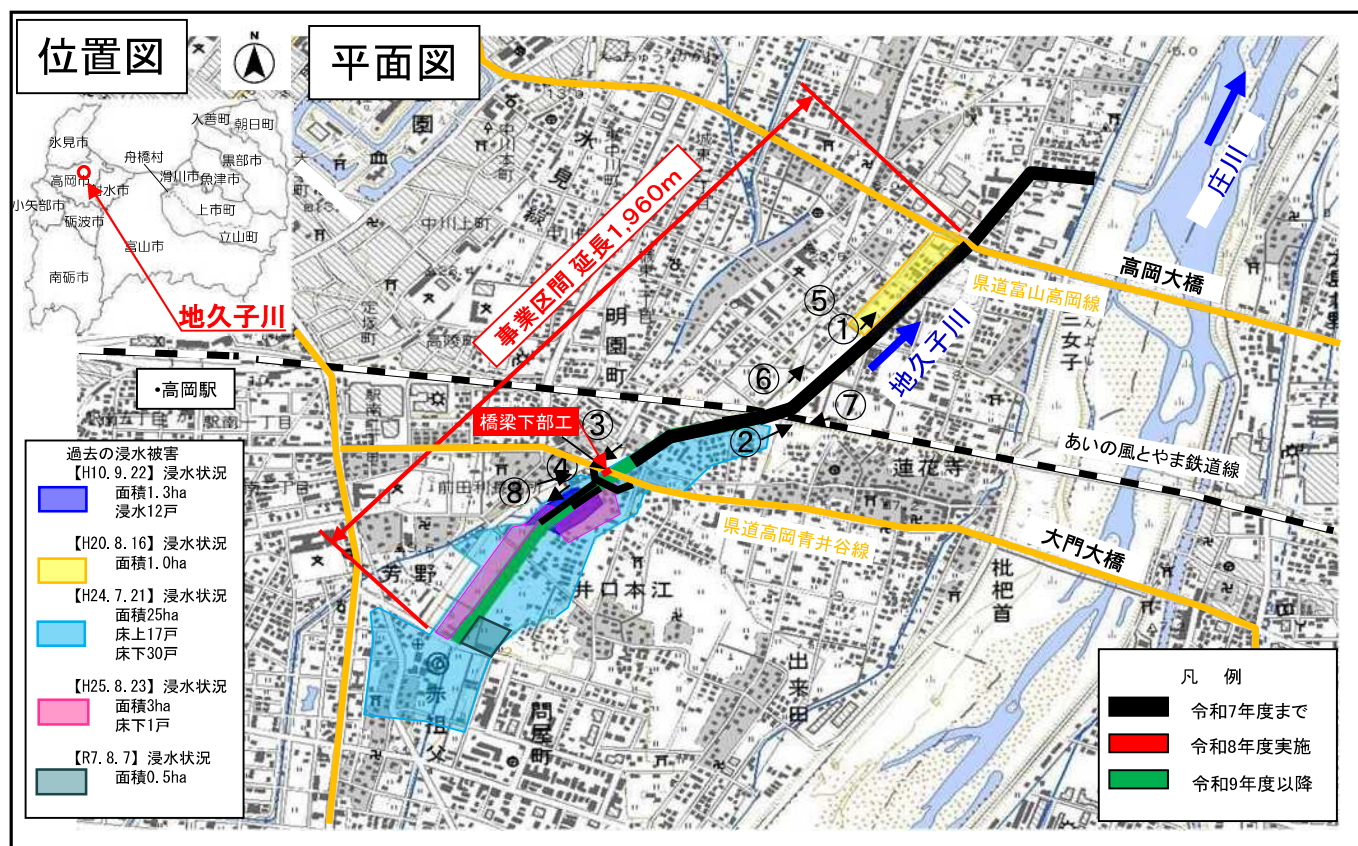
その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など
<ul style="list-style-type: none"> ・沿川地元自治会の要望が強く、高岡市からも早期完成の要望を受けている。
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響
<ul style="list-style-type: none"> ・地久子川流域において、平成10年9月の豪雨では、床下浸水12戸の浸水被害が発生したほか、平成24年7月、25年8月の豪雨、令和7年8月でも浸水被害が発生し、周辺住民の生活に大きな支障をもたらしている。 ・ゲリラ豪雨も増加傾向にあり、治水安全度が向上しない場合、浸水被害が今後も発生すると予見される。 ・早急に治水安全度の向上を図り、沿川住民の不安を解消するため、できるだけ早期の完成を図る必要がある。

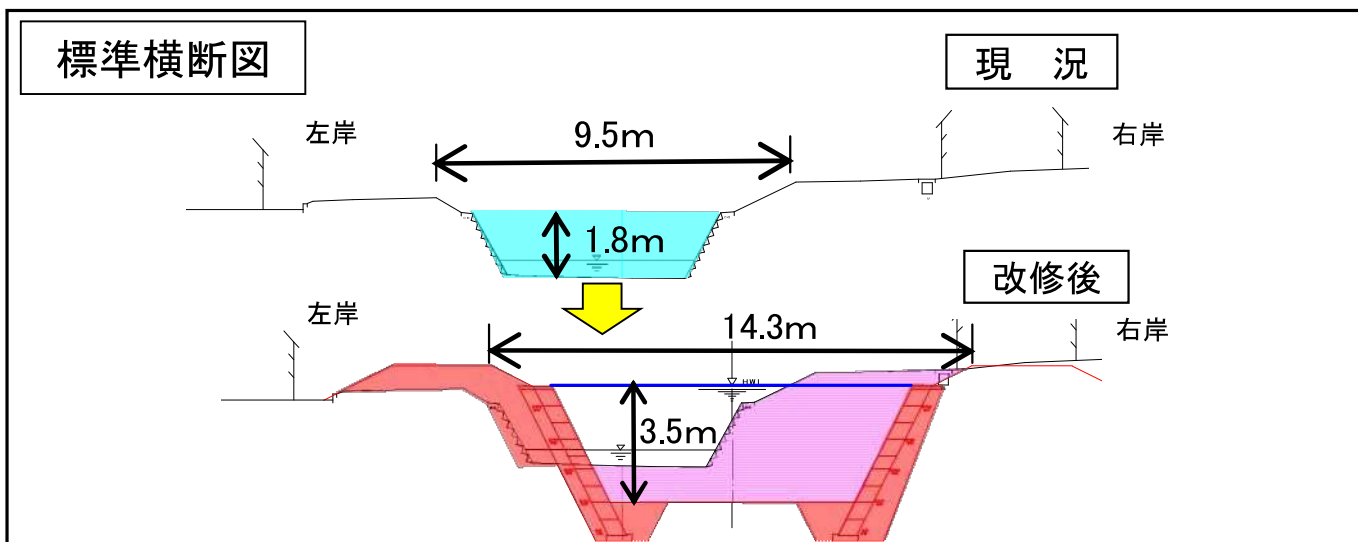
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年には大規模な浸水被害が発生しており、できるだけ早期の完成を図る必要がある。 ・費用対効果は1.0を上回っており、事業も順調に進捗している。 ・地元の要望も強く、早急に治水安全度の向上を図るため、事業の継続が必要。

9 河川改修費 庄川水系地久子川(高岡市野村～赤祖父)



主な工種 (全体事業量)	左岸 上流 右岸	事業区間延長1,960m 県道橋 鉄道橋	R8までの進捗率	
			事業量ベース	事業費ベース
用地補償 (1式)			-	96.7%
護岸工 (3,920m)			69.4%	48.2%



様式3-2

整備前の状況



現況写真

